



ほむる

建設的な生き方へのお手伝い (Just do it !)
 (カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい)
 【今月の一冊】 コーチが教える! 「すぐやる」技術
 井上裕之 著 フォレスト出版
 ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/prime21/>

発行日 2011年8月1日 **Vol.106**
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 代表取締役 渡邊敏徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

目立つこと

2人で共同作業をしている人に、どちらがたくさんの仕事をしたかと聞くと、たいていは自分の方が頑張ったと答えます。夫婦や恋人も、お互いに自分の方が苦労している、我慢していると感じてしまうことが、喧嘩のもとになります。

何かの原因を考えると、「目立つこと」が原因と考えられやすくなります。イギリスのダイアナ妃が交通事故で死んだのはなぜか？世界中の人がダイアナ妃の乗った車をバイクで追いかけていたパパラッチのせいで事故が起こったと思っていました。

あの場面で一番目立つものは、パパラッチだったからです。しかし実際は、運転手の飲酒やシートベルトをしていなかったことなどが、死亡事故の原因でした。

男達の中から一人だけの女性とか、年配者の中の一人だけの若者といった場合、女性とか若者とかということが目立つ特徴になります。そこで、失敗したときには、女性だからとか、若者だからと思われてしまいます。

今回の原発事故が起こった後の3月14日、東京電力の設備は6300万キロワットもあるのに、東京電力管内の国民が使った電気は、わずか2800万キロワットでした。それでも東京電力は「計画停電」を実施しました。その理由は「原発が事故を起こしたから」ということで、多くの国民は「仕方が無い」と思いました。

福島第一原発の発電量は全部で470万キロワットで、事故当時、4号機から6号機までは定期点検中で、もともと動いていなかったため、3月14日に東京電力が「実質的に事故でやられた原発の発電量」はわずか200万キロワットしかありませんでした。

東京電力は「津波でやられた。想定外だった」と言っていますが、実は津波で破壊したのは、6266キロワットのわずか3%、203キロワットに過ぎませんでした。この事故で現実に電気が作れなくなったのは、東京電力の発電量のわずか3%なのです。

私たちはとかく目の前の目立つものに意識がいきがちです。本当の問題は何だったのか良く観察する必要がありそうですね。

暑中お見舞い申し上げます



自分と他人

お母さんが家の中でバケツにつまずいて転んでしまいました。床は水浸し。お母さんは叫びます。「こんなところにバケツを置いたのは誰なの」。

私が転んだのは、こんなところにバケツが置いてあったから失敗し、こうなったのは環境のせいだと思うのです。

今度は、娘が同じようにバケツにつまずいたとしましょう。お母さんはきつと言います。「どこに目をつけているの。もっと気をつけなさい！本当にあなたはいつもそそっかしくて落ち着きがなくて・・・」。

転んだのは、環境のせいではない。あなた自身のせいだ。あなたの性格が原因だと考え、お説教が始まることでしょう。これは、お母さんに限ったことではありません。

人は誰でも、自分に関する出来事は環境のせいにし、人に関する出来事はその人自身の人格のせいだと判断しやすい傾向があるのです。

また、あなたが、待ち合わせに遅刻した時はどうでしょう。「ごめんね。目覚まし時計が鳴らなくて、バスがなかなか来なくて・・・」と言い訳をするでしょう。

それでは友達が遅れてきた時はどうでしょう。今度は、「あの人はいい加減な人だ」などと思ってしまう。自分自身の言動に注意したいものです。

【座右の銘にしたい名言】



解決策がわからないのではない。

問題がわかっていないのだ。

(ギルバート・ケイス・チェスタートン ~ 作家・推理作家・批評家)